

# 牛久：学校周辺に見る自然

第23号 ひたち野うしく小(、ひたち野うしく中)

2020年5月24日発行

## ＜ 晩春の校庭の植物 ～④草本(合弁花類)その2. キク科以外 ＞

こんにちは。開校11年目のひたち野うしく小校庭、4月末～5月の植物。今回は、合弁花類の草で前号のキク科以外のものを紹介します。



左は日本に昔からあるオオバコですが、右のは毛むくじゃらで最近多く見られるようになったツボミオオバコです。オオバコは多年草ですが、ツボミオオバコは一年草で北アメリカ原産の帰化植物です。姿は似ていても、生活のしかたは違うのですね。

オオバコ(左)とツボミオオバコ(右)。どこが違うだろう？

続いて、オオイヌノフグリのなかま。ひたち野うしく中学校にもあったムシクサは、ほとんど全ての花が実になっていました。実を見ると、やはりオオイヌノフグリに似ていますね。タチイヌノフグリは花を開いているのが多く見られ、今回は花のアップも撮れました。とても小さな花ですが、やはり形も色もオオイヌノフグリの花そっくりですね。



ムシクサ(左)とタチイヌノフグリ(中、右上)、オオイヌノフグリ(右下)。



きれいな花ですね。マツバウンランといい、ここまでがオオバコ科オオバコ科のなかまです。花の形が海岸かいぎに生えるウンラン（海蘭）に似て、松まつの葉はのような細い葉はをしているところから、この名がつけました。北アメリカ原産げんさんの帰化植物きかしょくぶつで、西日本から入ってきたようですが、いまは関東でもふつうに見られますね。

マツバウンラン(左)と花のアップ(右)。



ヤエムグラ (左) と花のアップ (右)。

こちらは、アカネ科あかねかのヤエムグラ。一見、離弁花りべんかのように見えますが、よく見るともとがつながっています。「ムグラ」というのは茂しげってやぶをつくる草のことをいい、「ヤエ」は八重やえで、幾重いくえにも折り重なおって茂かさるからとか、葉はが輪わになって茎くきにつくからなどといわれます。実は、服みなどによく引ひつきます。

おなじみのホトケノザ（シソ科）とキュウリグサ（ムラサキ科）も、まだ咲き残のこっていました。

名前の由来ゆらいは？ 忘れわすれちゃった人は、10, 11 号を読み返してね。

【理科支援員：宮内】



シソ科しそかのホトケノザ (左) と、ムラサキ科むらさきかのキュウリグサ (右)。